

令和5年度
教科名等

理科 科

| 校内科目名 | 学習指導要領 の科目名 | 対象学年 | 対象クラス | | | | | 単位数 | 分類 | 予定時数 |
|-------|----------------|------|-------|---|---|--|---|------|--------|------|
| YZ化学 | 化学 | 3 | A | B | C | | 4 | 必修選択 | 140 時間 | |

教科担当・教材等

| | |
|--------|-------------------|
| 授業担当者名 | |
| 授業形態 | 講義、演習、演示実験、実験 |
| 教科書 | 改訂 化学 東京書籍 |
| 使用教材等 | セミナー化学基礎＋化学 第一学習社 |

科目の目標・内容等

| | |
|-----------|--|
| 学習目標 | 化学的な事象・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。 |
| 学習における留意点 | 入試対策の講座であり、進度はかなり速い。また、毎回予習復習をきちんとしてくる努力が必要である。春休み中に各自で昨年度の全内容復習を終えること。 |
| 予習・復習 | 毎回予習復習をきちんとしてくる努力が必要である。特に復習に力を入れて、問題演習に励むこと。単元終了ごとに小テストを実施する。 |
| 評価方法 | 小テスト・定期考査・提出物・実験態度等から総合的に評価する。 |

年間授業計画

| 学期 | 単元・授業内容 | 学習の重点 | 評価の観点 |
|----|--|---|--|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ○物質の状態 1. 物質の状態 2. 気体の性質 3. 溶液の性質 4. 固体の構造 ○化学反応とエネルギー 1. 化学反応と熱・光 2. 電池と電気分解 ○物質の変化と平衡 1. 化学反応の速さ 2. 化学平衡 3. 水溶液中の化学平衡 | <ul style="list-style-type: none"> ・物質の三態 ・気液平衡と蒸気圧 ・気体の状態方程式 ・溶解と溶液 ・希薄溶液の性質 ・コロイド ・結晶格子 ・反応熱と熱化学方程式 ・ヘスの法則と結合エネルギー ・電池、電気分解 ・化学反応の速さと濃度、圧力、温度 ・可逆反応と化学平衡 ・電離平衡 ・塩の水への融解 | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な概念や原理原則が理解できているか。 ・問題演習に意欲的に取り組み、応用力を身に付けることができたか。 ・限られた時間の中で問題解決の方法を見付けられるか。 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> 4編 物質の状態 ○無機物質 1. 無機物質各論 ○有機化合物 1. 有機化合物各論 ○高分子化合物 | <ul style="list-style-type: none"> ・非金属元素の単体と化合物 ・典型金属元素の単体と化合物 ・遷移元素の単体と化合物 ・有機化合物の特徴と構造 ・炭化水素 ・アルコールと関連化合物 ・芳香族化合物 ・合成高分子化合物 ・天然高分子化合物 | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な概念や原理原則が理解できているか。 ・問題演習に意欲的に取り組み、応用力を身に付けることができたか。 ・限られた時間の中で問題解決の方法を見付けられるか。 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ○入試直前演習 | <ul style="list-style-type: none"> 入試対策演習 | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な概念や原理原則が理解できているか。 ・問題演習に意欲的に取り組み、応用力を身に付けることができたか。 ・限られた時間の中で問題解決の方法を見付けられるか。 |

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。